

2009年9月10日

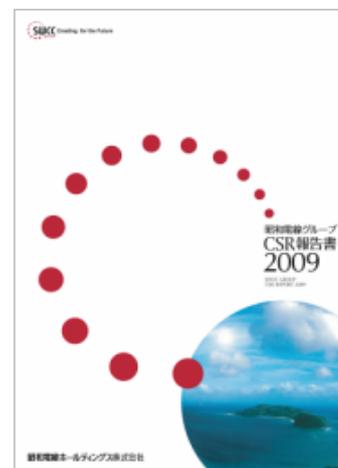
昭和電線ホールディングス株式会社

(コード番号 5805)

2009年 昭和電線グループCSR報告書

昭和電線ホールディングス株式会社（取締役社長 富井俊夫）は、「CSR報告書」として、2008年度の昭和電線グループの社会への取り組みならびに環境保全活動をステークホルダーの観点からとりまとめました。

「信頼」という経営理念に立ち、SWCCブランドを裏切ることのないCSRに根ざした企業風土の実現のため、CSR推進体制、品質向上、人権・雇用、安全・衛生、地域コミュニケーションなどの「社会・経済報告」と環境マネジメント体制、環境自主行動計画、環境配慮型製品の開発の成果などの「環境報告」に分けて紹介しています。また、今回も巻末に第三者意見を掲載しています。



【主なトピックス】

1. 社会的な取り組み

- ・CSR体制： CSR活動の推進体制、内部通報制度、BCP（事業継続計画）対策、情報セキュリティ推進体制の整備
- ・品質向上： 品質マネジメントシステム、SPS（Showa Production System）活動の推進
- ・人権・雇用： ワーク・ライフ・バランス、メンタルヘルス
- ・安全・衛生： 従来型災害の撲滅活動、カッターナイフ全廃活動
- ・地域コミュニケーション： 工場見学の受入れ、清掃活動

2. 環境への取り組み

- ・環境マネジメント体制
- ・環境に対する教育・啓発活動
- ・環境配慮型製品の開発 ①ダイレクトモールド壁貫ブッシング ②クワイセントパネル
- ・物流やオフィスでの環境負荷低減の活動紹介
ボランティアプランの達成状況

エネルギー削減量、環境配慮型製品比率など4項目は達成したが、経済活動の低迷によりエネルギー原単位、リサイクル有価率など4項目で目標未達成となった。

3. 環境会計

2008年度の環境会計は、銅価格の下落により「銅の回収、再資源により得られた収入額」が減少し、経済効果は3,828百万円となりました。

グループ全体 (単位:百万円)	2008年度		2007年度	
	投資額	費用	投資額	費用
環境保全コスト	309	782	408	1,061
経済効果	3,828		5,921	

以上

この件に関するお問合せは、下記宛にお願いします。

経営企画部 IR・広報グループ 03-5532-1911